

雲仙岳の火山活動解説資料(平成20年12月)

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成19年12月1日に噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

12月の活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況(図2)
噴煙は白色、ごく少量で高さの最高は50mでした。
- ・地震や微動の発生状況(図2、図3)
火山性地震の発生は2回(11月:2回)と少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動の状況(図4、図5)
GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。
12日に実施した光波測距観測では、火山活動に起因すると思われる変化はありませんでした。
- ・熱観測(図6、図7)
10日に実施した熱観測では、平成新山山頂(溶岩ドーム)の熱異常域の分布に大きな変化はありませんでした。

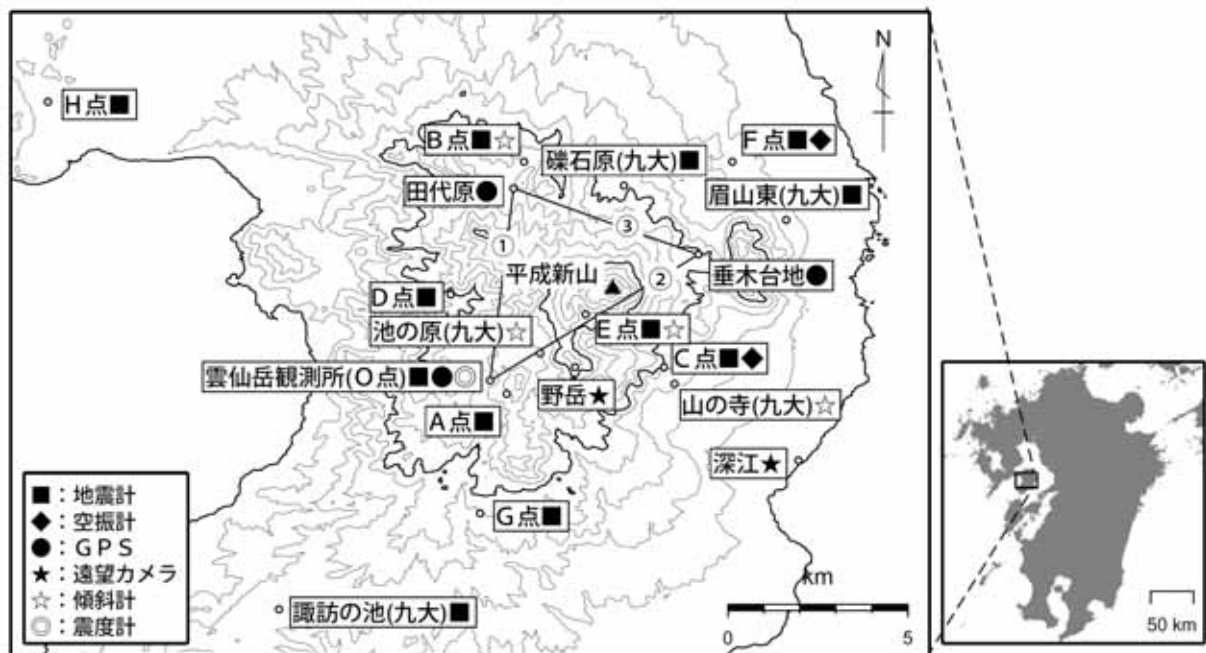


図1 雲仙岳 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、九州大学のデータを使用して作成しています。
地図の作成にあたっては、国土地理院長承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』及び『数値地図10mメッシュ(火山標高)』を使用しています(承認番号:平20業使、第385号)。
この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成21年1月分)は平成21年2月6日に発表予定です。

雲仙岳

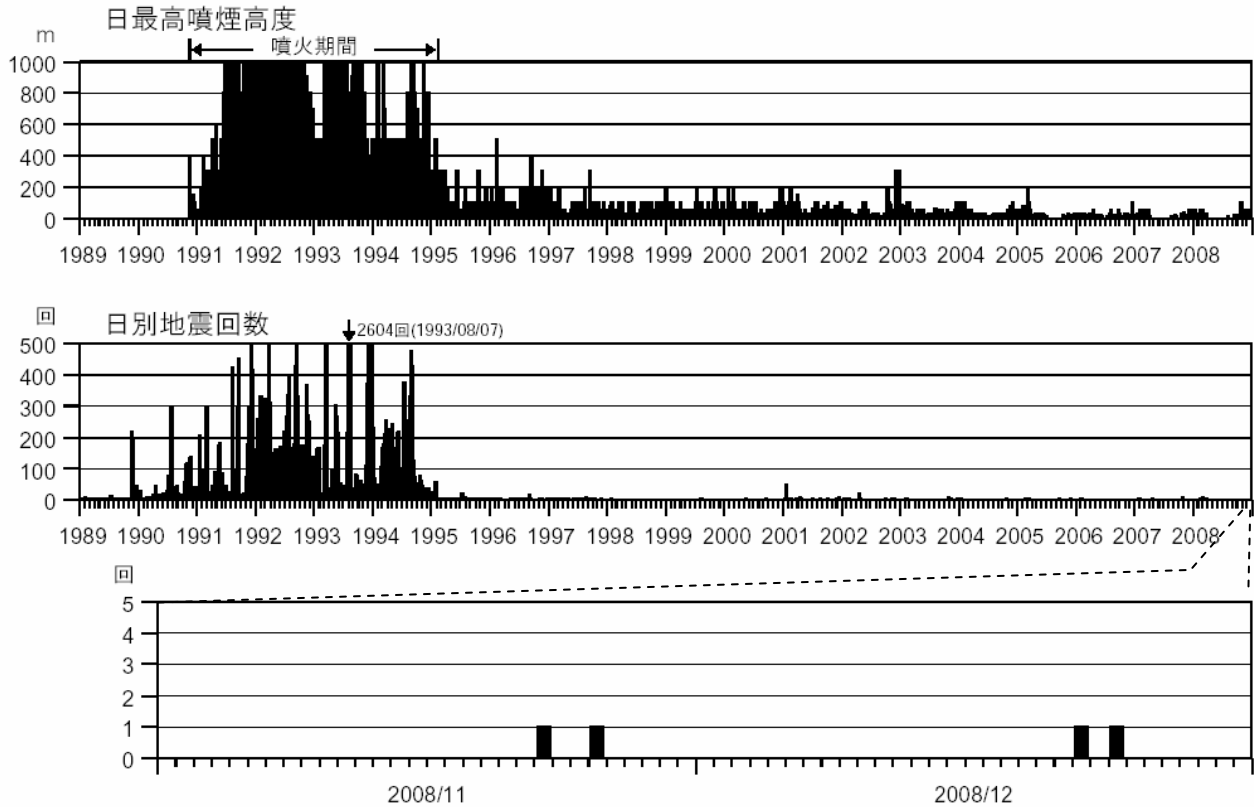


図2 雲仙岳 火山活動経過図(1989年1月~2008年12月)

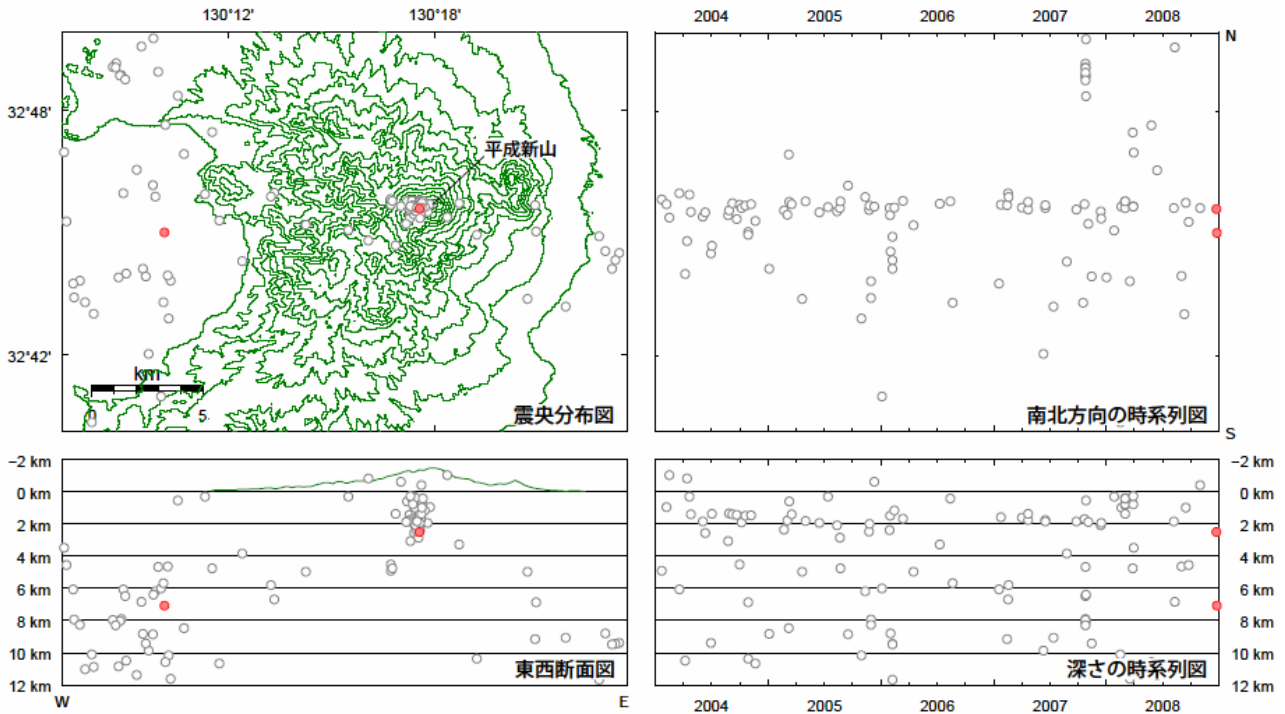


図3 雲仙岳 震源分布図(2004年1月~2008年12月)

震源は、平成新山付近及び平成新山の西側の橋湾付近に求まりました。

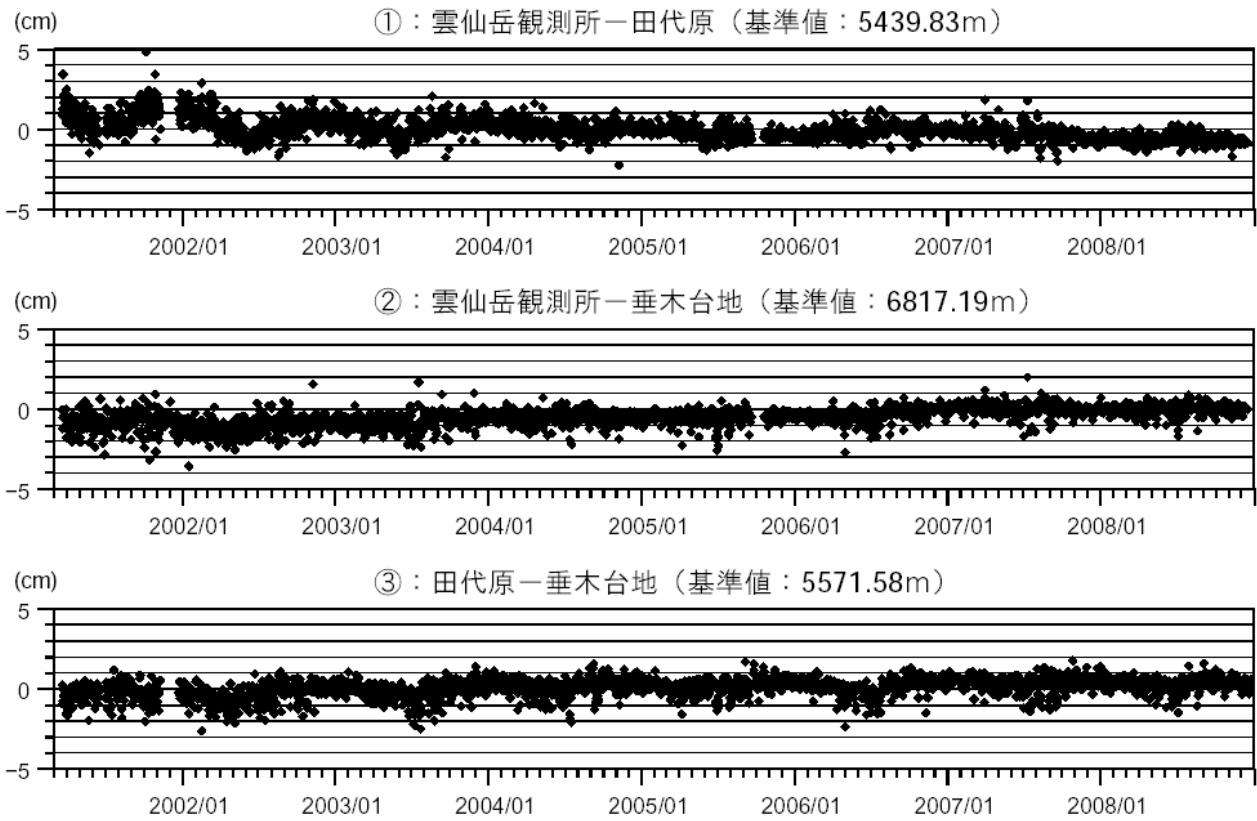


図4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化(2001年3月20日~2008年12月31日)
火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。

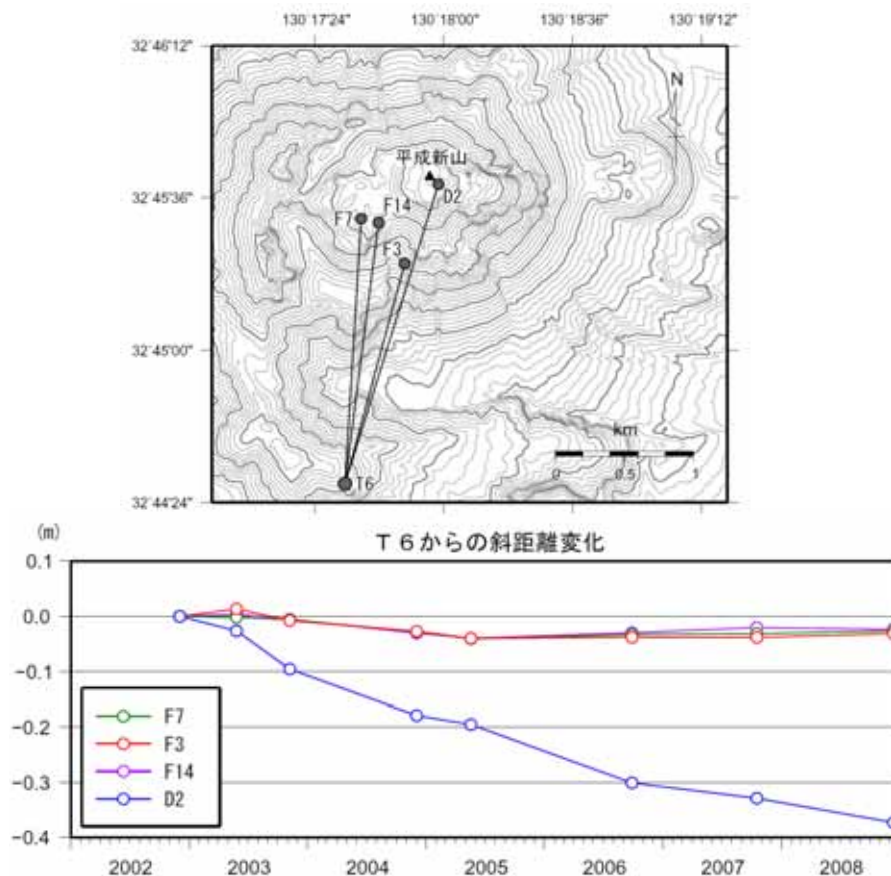
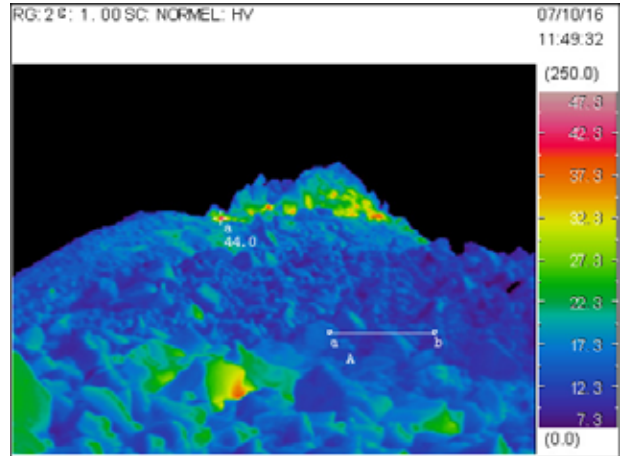
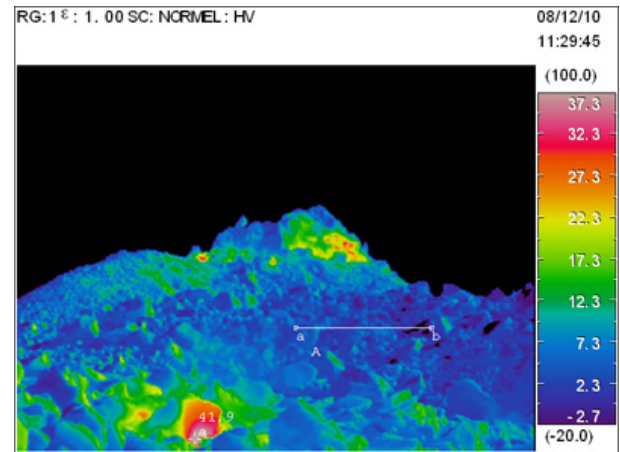


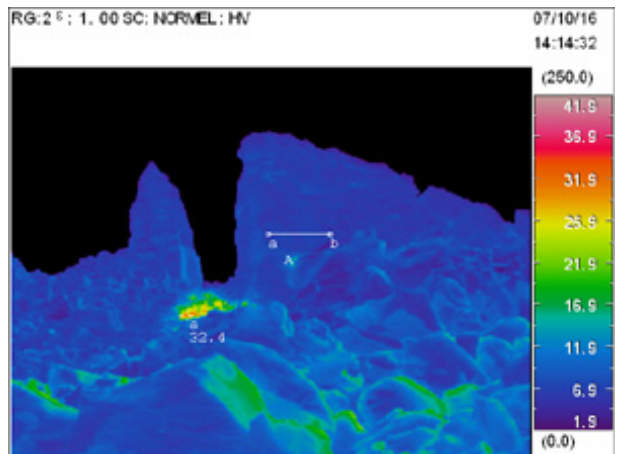
図5 雲仙岳 光波測距観測(2002年12月~2008年12月)
D2観測点の変化は溶岩ドームが自重により沈降しているものと思われます。



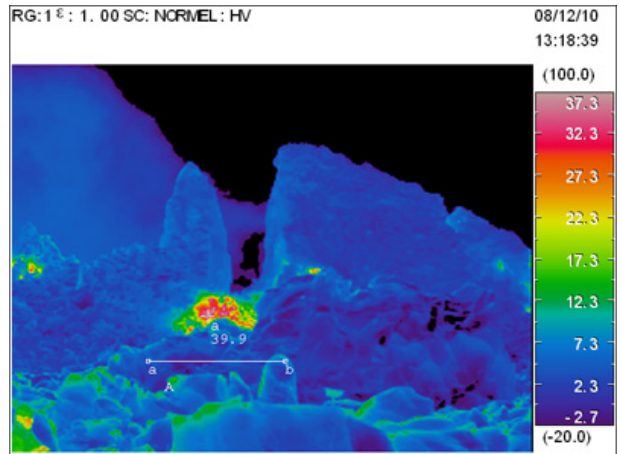
TD1 可視画像と熱画像 2007年10月16日



TD1 可視画像と熱画像 2008年12月10日



TD3 可視画像と熱画像 2007年10月16日



TD3 可視画像と熱画像 2008年12月10日

図6 雲仙岳 平成新山 可視画像と熱画像

赤外熱映像装置¹⁾による観測では平成新山山頂(溶岩ドーム)の熱異常域の分布に大きな変化はありませんでした。

熱画像の温度表示レンジは高温域ではない領域の平均温度(ラインA)で調整しています。

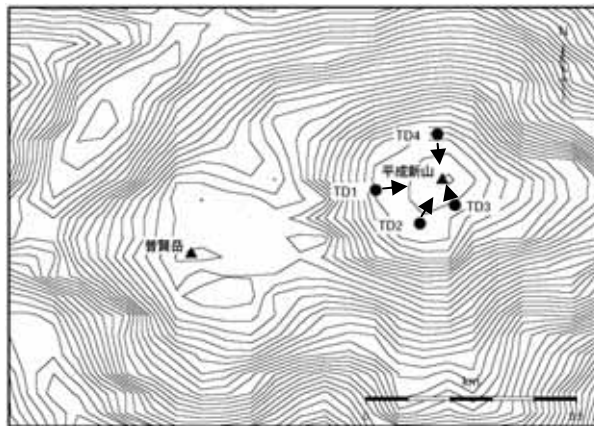


図7 雲仙岳 平成新山 可視画像と熱画像の撮影位置

¹⁾ 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。